



発行所 日本産業衛生学会九州地方会
 〒807-8555
 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
 産業医実務研修センター
 TEL (093)691-7171
 FAX (093)692-4590
 発行責任者：地方会長 大久保利晃

(題字 倉恒匡徳 筆)

平成13年度九州地方会学会・総会開催のご案内

平成13年度日本産業衛生学会九州地方会学会長 福 光 ミチ子
 (BOOCS 情報センター福岡)

会 期：平成13年7月6日(金)～7日(土)	○シンポジウム 6日 14:30-17:30
場 所：九州大学同窓会館 (福岡市東区馬出3丁目1-1)	「雇用形態の多様化と産業保健のあり方について」 座長 馬場園明 (九州大学健康科学センター) 西 雅子 (朝日新聞健康保険組合)
日 程：一般口演 6日 10:10-12:30 7日 9:30-11:30、13:30-15:00	シンポジスト 「産業看護職の立場から」住徳松子(アサヒビール(株)) 「女性労働者の問題」辻本郁子(女性協同法律事務所) 「労働組合の立場から」村上 守 (連合福岡) 「労働行政の立場から」田崎和祐暉 (福岡労働局) 「総論的な立場から」稗田慶子 (福岡県副知事)
自由集会 7日 15:00-17:00	
総 会 6日 13:30-14:30	
評議員会 6日 12:30-13:30	
理 事 会 7日 8:30- 9:30	
○特別講演 7日 11:30-12:30 九州地方会会長 大久保利晃 (産業医大副学長) 「アウトソーシング時代に求められる 産業保健専門家の資質について」	

一般演題申し込み要領：

- ①演題申し込み
送付済みの申し込み用紙を事務局宛郵送下さい。
締め切り日 平成13年3月19日(月) 必着
- ②抄録の提出
抄録3部(様式は下記)を事務局宛郵送下さい。
締め切り日 平成13年4月20日(月) 必着
(抄録集は学会当日配布) (に掲載予定)
- ③抄録の様式
A4サイズ(余白 上・下 15mm)
上段より、タイトル、演題(第一演者氏名の前に○)、400字程度の要旨(程度)の順に記載。フォントはゴシック体(は16ポイント以上(縮小、オフセット印刷のため))
- ④演題についてのご注意
1) 演題の受付には発表者および連名者全員が日本産業衛生学会会員であることを要します。非学会員の方は至急、入会手続きをお願いします。
2) 第一演者(口演者)としての発表は、1人1題に限らせて頂きます。

発表形式：

一般口演は、1題15分(口演10分、質疑応答5分)を予定。スライドプロジェクタ、OHPを各1台準備。
自由集会の申し込み：

送付済みの申し込み用紙を事務局宛郵送下さい。
締め切り日 平成13年3月19日(月) 必着
学会参加費： 2,000円(会員) 3,000円(非会員)
○懇親会 日時：7月6日(金) 18:00-20:00
会場：同窓会館2階 参加費：5,000円
宿泊その他：
学会期間中の宿泊等につきましては、各自ご手配くださるようお願い申し上げます。
一般演題及び自由集会申し込み受付後、事務局より確認のため申込者にご連絡申し上げます。連絡がない場合は学会事務局までFAXまたはE-mailにて、ご一報下さい。
プログラムの送付は6月初旬を予定しております。
今学会は産業看護部会で企画運営させて頂いております。また、会期中には博多祇園山笠の「集団山見せ」が行われます。部会員一同、初夏の博多で皆様多数のご参加を心よりお待ちしております。なお、何か不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。
○学会事務局
BOOCS 情報センター福岡
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-19-17
トーカー博多第5キャスター311
担当：藤原直子 受付：中村有佐
TEL 092-434-9611 FAX 092-477-7612
E-mail: fukumitsu-m@boocs.co.jp

特集：平成12年度産業看護研究会

開催にあたって

今回は、今世紀最後の産業看護研究会開催ということで、気分を更に引き締め、メインテーマを「産業保健の新しい視点」としました。多様化する職場で働く人々の期待に応える事のできる専門職として、健康の枠を超えた広い視野での知識、知恵を深めるために、国の施策、日本産業衛生学会・看護部会のめざしているものを正しく把握するために「産業看護職の自覚と認識」と題したフォーラムを企画し、4人の方々から業務を通して話題提供を頂き九州地方会・産業看護研究会の初代・代表であった鈴木美代姉から、設立当時の意義について発言をいただきながらフリーディスカッションを盛りあげて頂き過去、現在そして将来にむけてディスカッサントに多くの知恵を頂くプログラムとしました。多くのみなさんご参加、御発言を期待します。

福光 ミチ子 (BOOCS情報センター福岡)

プログラム

日時：平成12年11月15日(土) 9:30-12:20

場所：福岡県看護等研究研修センター

開会挨拶 産業看護部会代表 福光 ミチ子

フォーラム「産業看護職の業務の自覚と認識」

～個人として、組織として～

座長 後藤由紀 (産業医科大学)

日笠理恵 (福岡県市町村職員共済組合)

話題提供 森中恵子 (九州電力(株)本店)

住徳松子 (アサヒビール(株)博多工場)

西 雅子 (朝日新聞健康保険組合西部支部)

日野義之 ((財)西日本産業衛生会)

フロアディスカッション

ディスカッサント

和田晴美 (国際セントラルクリニック、
日本産業衛生学会看護部会副会長)

本川眞弓 (九州看護福祉大学、
日本産業衛生学会看護部会教育幹事)

フォーラム「産業看護職の業務の自覚と認識」を聴いて

柴戸 美奈 (財九州産業衛生協会)

長引く不況、多様化する職場やIT革命など産業保健を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、かつ厳しい状況である昨今、産業保健の現場で働く産業看護職が専門職として、働く人々のニーズに答えるためには意識改革が必要になっ



フォーラム

てきているのではないかという事から、平成12年度の産業看護研究会はメインテーマを「産業保健の新しい視点」とし開催されました。

「産業看護職の業務の自覚と認識」と題して、話題提供者を九州電力(株)森中恵子先生、アサヒビール(株)住徳松子先生、朝日新聞健康保健組合の西雅子先生、(財)西日本産業衛生会の日野義之先生の4氏にお願いし、ディスカッサントとして日本産業衛生学会看護部会副会長である和田晴美先生と教育担当幹事の本川眞弓先生を迎えフォーラムが行われました。

森中先生からは一企業内で長年産業保健に携わってきた保健婦の立場から話題が提供されました。時代とともに保健婦に対するニーズが変化して、多様な業務を行っているが保健婦の専門性を突き詰めてみると保健指導のみが残る。今後、保健婦業務の範囲の見なおしが必要と思われるが、地域保健婦とは違い産業看護職には卒後教育のシステムがなく、多くは個人の自覚と意識にゆだねられている。組織的な取り組みの必要性を感じるというものでした。

住徳先生は、今まで経験してきた3企業での産業保健活動を振り返って、企業規模や業種、社風等でやり方が違うが、まず産業保健の専門職である前に一人企業人としての自覚が必要である。専属産業医や衛生管理者がいないところでは「衛生管理者」として提案したほうが産業看護業務はやりやすくなることを実感したというものでした。

西先生からは組織づくりの観点から、産業看護職の雇用はかなり厳しくなっているが、産業看護職は産業医と違い身分保障のない現状の中で産業看護職として発言していくためには、日本産業衛生学会や日本看護協会に入会し組織的な活動をする必要性を感じている。しかし、現実には入会者がかなり少ない。今こそ個人の自覚で組織活動を発展させる必要があるのではないかという話題が提供されました。

日野先生からは産業保健のチームメイトの立場から、厳しい社会状況の中こそ産業保健は必要だが、何が必要かを理解していくためにもスキルのグレードアップは必要であり、業務の評価や資格の取得、研究的活動への参加は重要

寄稿

ペッテンコーフェル没後100年 —その業績の顕彰から未来の展望を—



およそ衛生学・公衆衛生学を学んだ者で、1865年にミュンヘン大学に世界で初の衛生学講座が創設され、その教授として実験衛生学をうちたてて近代

衛生学の創始者とされているMax von Pettenkofer (1818-1901)の名前を知らない人はいないであろう。

今年、彼の没後100年の節目の年に当たる。そこで、彼が死亡した日の2月10日を中心にして、ミュンヘン大学・ミュンヘン市などでは、彼の業績を顕彰する記念集会などが開催されている。世界各地でも、同様の各種の顕彰の企画が進められることであろう。

ペッテンコーフェルの生涯と業績

彼の生涯やその業績の詳細については、彼の門弟で、東京大学にわが国で初めて設置された衛生学講座の教授に就任した緒方正規を初め、少なからざる人々が紹介しているので、ここでは割愛したい(緒方正規・国家医学会雑誌第192号 明治36年4月、などを参照)。ちなみに、緒方正規→鯉沼茆吾→井上俊(名古屋大学教授)との関係の考えると、私は、ペッテンコーフェルの玄孫(やしゃご)弟子の一人に当たることになる。

1818年、ドナウ河畔のリヒテンシュタインで生まれた彼は、波乱に満ちた経緯ののち、1843年に薬学と医学のドクトルの称号を得た。その後、「リービヒ冷却器」に名を残すリービヒの影響を受けて化学に興味を持ち、有機化学・医化学領域の業績を上げ、臨床面に化学的診断法を導入して、28才の若さで、学士院の準会員にも指名された。

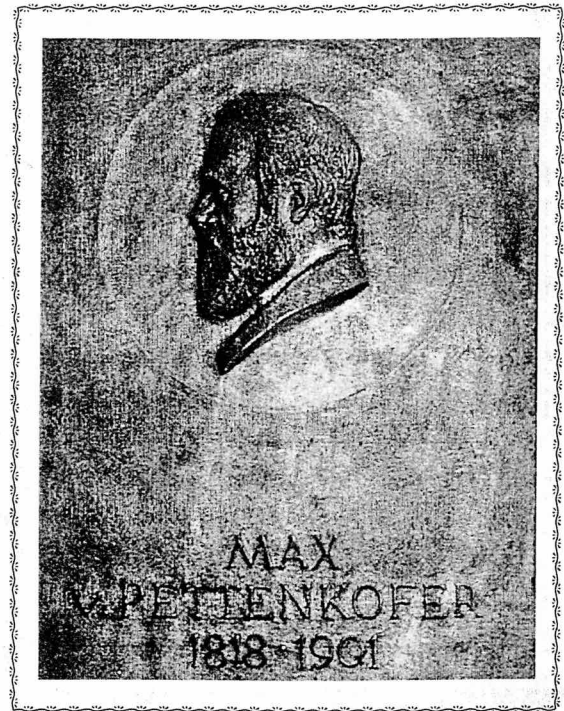
彼の化学的研究は、その後次第に栄養化学・生理化学に傾き、他方、空気暖房から住居の換気、衣服衛生から建築衛生へと進んでいった。気中炭酸ガス定量法や室内空気の炭酸ガス恕限量などに関する彼の業績は、知らない人はいないであろう。また、コッホとの有名なコレラ論争などがあるが、これらは紙面の都合で省略したい。

1865年、既述のごとく衛生学の正教授に任命され、さらに学長に就任し、バイエルン、さらに後にはドイツ全国の医師国家試験の試験科目に衛生学を加えさせている。しかし、衛生学の学問的独立性・アイデンティティの確立のためには、終生、大きな苦難の道を歩んだ。

彼の業績は極めて広範で、伝染病予防に関しても、土地浄化のために上水・下水道の建設を提唱し、さらに、都市の緑化なども唱導して、これらは「健康都市ミュンヘン」

鹿児島産業保健推進センター所長

松下敏夫(鹿児島大学名誉教授)



の都市計画にも反映され、大きな成果を上げた。

このような功績により、ミュンヘン市の名誉市民に任ぜられ、周知のごとく、ミュンヘンには、その名を記した研究所のみならず座像や道路などが現存している。

1894年に教授を引退するまでは研究・教育活動を続け、Handbuch der Hygieneを始め多くの雑誌も創刊し、国内外の重鎮として信望を集め、数々の栄誉を与えられ、近代衛生学の開拓者にふさわしい生涯を送った。1899年に学士院院長を辞任してからはまったく隠遁した。しかし、妻子を失い、晩年は寂しい生活であったと伝えられており、1901年2月10日、ピストル自殺を遂げた。彼の遺体は、ミュンヘンの南墓地に葬られている。

21世紀における衛生学・公衆衛生学は、そのあり方やアイデンティティが、今日、鋭く問われているといっても過言ではなからう。産業保健に関しても、同様のことがいえよう。ペッテンコーフェル没後100年に当たり、彼の業績を顕彰し、これを、われわれの将来の活動のあり方の展望を切り拓く糧としたいものである。

終わりに、本稿の執筆にあたり種々ご教示頂いた熊本大学名誉教授・野村茂先生に深謝します。

日本産業衛生学会指導医紹介

今回は1003番以降の方をお願いしております。(以下、登録番号順に紹介)

一つの転機

労働衛生コンサルタント

服部 泰 (指導医登録番号1003)

一昨年は私にとり大きな転機となりました。医学部卒業後13年間、専属産業医として勤めた会社をやめ、今の形で仕事をするようになったのです。現在、嘱託産業医をはじめ巡回健診、各講師活動等を中心に仕事をしています。

この不景気なご時勢に大企業をやめ、今の道を選んだことに対し、まわりには疑問を投げかける人もいましたが、自分としてはそれなりの考えを持ったうえでの選択でした。今までの経験を生かし、主に中小企業の産業保健活動をやってみたい。それもいろいろな業種、事業所で、現場に根ざしかつ精通した産業医として実務をやっていききたい。しかも組織に縛られることなく、自分の裁量で自由にやってみたい。これらすべての条件を満足する形として、これしかないという思いでこの選択を行いました。

よくいわれていることですが、わが国において大多数を占める中小企業には、まだこれから解決すべき産業保健上の問題がたくさん残されております。既に大企業には次々と若い力が入ってきており、すばらしい実績をあげつつあります。中小企業においても産業保健あるいは労働衛生のスペシャリストが嘱託産業医として入っていき、そのレベルを上げていくことは非常に重要かつやりがいのあることだと考えております。

現在、社長自らが汗と油にまみれて仕事をしているような会社も受け持っており、目立たないですが、産業保健を下からささえるような草の根的活動を行っていくつもりです。

も、今回指導医になったときも、全く以前と変わりなく、日々の産業医活動を行っています。もちろん専門医や指導医の資格を得たからといって、一朝一夕に産業衛生活動が180度よい方向に転換できるわけではありませんが、多くの事業場が求めている産業医(労働基準監督署が認める産業医)像と専門医や指導医が描いている理想的な産業医像のギャップはあまりに大きく、事業場は必ずしも専門医資格を持った産業医を必要としていないのではないかとすることがあります。

このような状況で、事業場に専門医や指導医を認知してもらうためには、私たち専門医や指導医が現場において私たちの存在を積極的にアピールし、事業場に「確かに専門医や指導医に相談するとメリットが大きい」と思ってもらえるような活動を続けることが大切だと思います。さらに行政においても、健康診断項目の取捨選択などに関して、学会認定の専門医や指導医に裁量権を付与するなど、専門医や指導医が現場において、柔軟に対応できるように法的整備を行っていただき、側面から援助をしていただけたらよいのではないかと思います。

現在事業場においては、VDT、メンタルヘルス、新規化学物質の生体影響、生命倫理に関する問題、および生活習慣病の予防対策、など問題が山積しており、これらの諸問題に対する迅速で的確な対応や、回答を事業場は産業医に期待しています。したがって、これらの疑問や質問に対して、ひとりひとりの専門医や指導医が真摯に、そして的確に応えることこそが、最終的に事業場に専門医や指導医を認知してもらい、同時に地位の向上を図ることになるのではないのでしょうか。そのため私も専門医や指導医のひとりとして、事業場に應えることができるように、日々研鑽を重ね、日本産業衛生学会の諸先生方のご協力とご指導を得てこれまで以上に努力をしていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

嘱託産業医活動の充実を夢見て

(働)西日本産業衛生会 健康管理部

日野 義之 (指導医登録番号1024)

事業場に認知される専門医、指導医を目指して

大分医科大学 公衆・衛生医学(II)

青木 一雄 (指導医登録番号1018)

日本産業衛生学会の専門医制度による厳しい専門医の資格認定試験を受けてから、早いもので5年が経過しました。その間、専門医としての役割を十分に果たせたか否かは甚だ疑問ですが、とにもかくにも時が過ぎ、指導医の資格審査を受けることができる時期がきました。昨年の7月に幸いにも資格審査をパスさせていただきましたので、晴れて指導医の仲間に入れて頂きましたが、専門医になったとき

皆様こんにちは。この度、指導医の末席に加えていただきました日野でございます。以下に、簡単な自己紹介と現況報告をさせていただきます。

私は、産業医科大学医学部を平成元年に卒業し、その後は産業医実務修練を目指して産医大卒後修練コース(産業保健研修コース(5年制))へ進みました。内科研修の後、平成3年にNKK(日本鋼管)で専属産業医を経験し、平成4年からは産業医科大学産業生態科学研究所を中心に産業保健分野での修練をつみました。産業保健研修コースを

修了後、平成6年7月から(財)西日本産業衛生会(北九州を拠点とする企業外労働衛生機関)に所属し専門的嘱託産業医として活動しております(現在27事業場の嘱託産業医活動を担当)。

今後も担当事業場での産業保健のさらなる充実に邁進していきたいと考えております。また、(財)西日本産業衛生会が嘱託産業医活動を提供させていただいている数多くの事業場(対象事業場数:358事業場、全対象労働者数:55,784人)の産業保健の充実に、機関所属医師の立場から少しでもお役に立ちたいとも考えております。

(財)西日本産業衛生会は産業医科大学のお膝元にあることもあり、多くの先生方のご指導を仰ぎお力をお借りしながら、他機関のモデルとなるような取り組みが現実のものとなることを夢見ながら活動して参る所存です。今後とも、なおいっそうのご指導をお願い申し上げます。

専属産業医としての近況

トヨタ自動車九州(株)総務部安全衛生室

田中 雅人(指導医登録番号1027)

この度、日本産業衛生学会指導医の資格認定をいただくことが出来ました。この場をお借りし、研修登録医、専門医の期間を通してご指導いただきました地方会長の大久保先生を始め、九州地方会の皆様方にお礼申し上げます。

この間、産業医大の産業保健研修過程を修了し、現在の事業所にて専属産業医として勤務をするようになって6年が経過しました。基本的な職務に変わりはないものの、アウトソーシングによって、一事業所においても様々な雇用形態を持つ労働者の方々と接しての業務を行うことが多くなってきました。当初は、特定の労働者に対して少なくとも数年にわたって繰り返しアプローチしていく職務スタイルを考えていましたが、場合によっては一回だけのかかわりにおいて、不十分ながらも可及的なサービスを提供することが求められるようになってきました。これは程度の差はあっても、ほとんどの専属産業医にとっての大きな課題となっていると思います。

7月の九州地方会に取り上げられているテーマでもありますが、一事業所や一企業外労働衛生機関単独での産業保健活動では、大多数の労働者に一貫した予防的介入やサービスを行うことは難しくなってくると感じています。情報インフラが高度化することにより解決できる問題も多いのですが、専門職が意識してその流れに即応していくことが必要だと思えます。

実務を行っている立場から、今後とも専門医制度や産業保健専門職の養成を行っている教育機関での実習を通し、資格に恥じないようご協力を続けさせていただきたいと思えます。

日本産業衛生学会専門医紹介

平成12年度に取得された九州地方会のお二方を紹介します。

専門産業医の大学での役割

久留米大学医学部環境衛生学

石竹 達也(専門医登録番号102)

幅広い考え方でできる医師になりたい、基礎も臨床も経験してみたいというのが医学部卒業時の希望でした。そこで最初の2年間は臨床研修病院でスーパー・ローテート方式の研修を選択しました。内科・外科・小児科(内2カ月は新生児科)の研修を各6カ月行った後に、麻酔科、皮膚科それに離島医療(小児科、内科医として)も経験しました。研修終了時には臨床医としてさらに研修を進めることに大きな魅力も感じましたが、基礎的な考え方を身に付けたいとの思いから、大学院生として産業保健を専門とする現在の教室に入りました。

大学院終了後は臨床医としての道に戻るものと考えていましたが、いつのまにか現在の教室にお世話になって12年が経ってしまいました。その間一貫して振動障害の基礎と臨床研究に従事しながら、学生講義・実習を担当してきました。また、ある企業の産業医として健康管理を主体とする産業保健活動にも関わっています。

専門医試験はこれまでの活動で得られた知識や経験を試すのに絶好の機会と思い受験しました。この試験準備にあたり、これまでの知識を系統化して再整理できました。さらに産業保健活動に必要な不可欠な関連法規の理解を深めることができるなど大いに役立ちました。今後は学会専門医としての実務経験をさらに積み重ねながら、現場の事例を豊富に取り入れた内容の学生教育を行っていききたいと思います。研究面でも現場の問題点を生かしたテーマに取り組むことで、産業現場と大学を結ぶ産業保健活動に積極的に関与して行きたいと考えています。

企業外労働衛生機関に所属して

(財)西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所

南 牧子(専門医登録番号105)

昨年6月より企業外労働衛生機関である(財)西日本産業衛生会に所属しています。主な業務は、嘱託産業医活動、健康診断の実施、健診結果判定で、2:1:1ぐらいの割合で従事しています。

現在、11事業所の嘱託産業医を担当しています。製造業、運輸業、清掃業など業種は様々です。当会の特徴として、

分散型事業所の企業を複数の産業医がグループで担当しているケースがあります。私もこのグループの一員として、昨年までは「産業保健修練医」という立場で、先輩・同僚の先生方から多くのことを学びました。嘱託産業医活動をしていると、どうしても自分の得意分野に偏ってしまうことが多いのですが、複数の産業医が関わることで総合的な産業保健活動を推進していくことができ、大変勉強になりました。

昨年、産業医としての一つの目標であった日本産業衛生学会専門医の資格をいただき、今後は専門医として更に充実した産業医活動を展開していきたいと思えます。健診、判

定業務では、委託いただいた事業所ならびに受診者に対して、いかに有益な健診を実施し適切な結果をお返しすることを考えていますが、日々の業務に追われてしまっているのが現状です。専属産業医・嘱託産業医・衛生管理者との橋渡しの役割ができればと思っています。

何よりも学生時代陸上部で鍛えた足で現場をまわり、誠意を持って従業員・事業主の方々と接することが私の基本姿勢です。私生活では、消費期限切れの食品の放置、駆け込み乗車など、不衛生・不安全行動が多くありますが、計画的に改善していく予定です。このような私ですが、今後ともどうぞご指導のほどよろしく願いいたします。

第100回九州医師会医学会分科会

第1回九州産業医教育講演会参加報告

熊本県医師会産業保健担当理事 伊津野 良 治
(熊本内科病院院長)

平成12年の九州医師会医学会は第100回の記念事業のひとつとして、産業医学会を新設分科会として発足させた初代の会長には熊本大学学衆衛生学教授の二塚信先生が選ばれた。

分科会(12月19日於熊本市産業文化会館)としては午前を講演2席、午後にシンポジウムがひらかれた。講演の第1席は産業医大、人間工学教授神代雅晴先生に、「職場で出来る職場の人間工学」の演題でお許いただき、2席には同じく産業医大、精神保健学教授永田頌史先生に「女性労働とメンタルヘルス」と題してお話を頂いた。

神代先生の講演では、人間工学の手法として大事なものは現場での直接観察であり、科学的測定を主とする産業医学と異なる事、また任務として大事なものは設計であり、それは物を作るためだけでなく、仕事、健康設計まで含む事を強調された。

永田先生は多方面の調査などのデータから、職業上の問題点やストレスについて性差があるのかどうか、また女性特有の問題は何かといった点について・いわゆるセクハラにも触れられ、今後の支援対策として家事や職場での人間関係、気分転換、ストレスコーピングなどの重要性について述べられた。

午後は産業保健の現場からの話題として、「地域産業保健センターと産業医活動の展望」と題して各方面の実地に担当されている方々の意見を聞いた。シンポジストには専属産業医、嘱託産筆医、コーディネーター、直筆保健推進センターのそれぞれの立場からお話を頂き、のちにフロアを中心にフリートークの形で会場の先生方の思いを聞かせて頂いた。

参加者は110名を越え、和やかで熱心な分科会になった。

女性会員の声

平成12年度

「緑十字賞」を受賞して

(株)興人八代工場診療所 前 田 充 子

昨年6月突然、日本化学繊維協会より緑十字賞の推薦を受け、暫くは信じられませんでした。中央労働災害防止協会より10月25日に受賞し感激でいっぱいです。

私は、国立熊本病院附属看護学校の3年間、僻地医療活動に参加した経験から、現大阪府立看護大学に進学、現在の会社へ昭和40年入社、以来36年に成ります。

慶応大学桜井治彦名誉教授、大前和幸教授、大阪大学故後藤桐教授、大分医科大学三角順一教授の諸先生のご指導の元、CS2健康調査を勉強させて頂きました。一般健康診断の他、化繊協会のCS2特健方式による網状赤血球数、好酸球、総コレステロール、PSP、TTCA、眼底検査、眼底検査、負荷心電図検査、脳MRI等の貴重な経験は、大切な財産と成りました。

入社当時従業員約1,500人、専任の産業医を中心に健康管理の計画、実施、指導とスタッフの皆さんと共に、充実した日々を過ごす事が出来ましたが、21世紀を目前にして、レーヨン、セロファン工場が操業停止となり60余年の歴史を終えました。健康管理は今後も継続実施されます。会社の理解と、色々な事を学ばせて頂いた上に、こんな立派な緑十字賞を受賞できましたことに幾重にも感謝申し上げます。受賞に恥じないよう産業看護婦として新たな使命と責任を持って頑張ってお参ります。本当に有り難うございました。

本部理事会報告及び地方会理事会報告

本部理事会報告

平成12年度第3回理事会(平成13年1月13日(土))での主な審議事項について報告する。

1. 定款改定について

改定の方向で進めているが、所管官庁である厚生労働省が多忙のため交渉が進んでいない。このため、平成13年度からの改定は困難であり、平成13年度は現定款を継続し、引き続き交渉を続けることが承認された。これに関連し、法人格を持つ学会のメリット・デメリットについても検討することとした。

2. 第76回日本産業衛生学会の開催候補地を中国地方会とし、企画運営委員長芳原教授(山口大)で、4月下旬に山口市で開催を予定していることが承認された。

3. 第12回産業医・産業看護全国協議会の候補地として、全国産業安全衛生大会が福岡で開催されることから、近接した熊本で企画運営委員長を小山和作先生(熊本日赤)、副委員長高木先生(ブリジストン)、本川先生(熊看大)として開催することが承認された。

4. 平成12年度事業報告・決算案について検討した。

5. 平成13年度事業計画案および予算案について検討した。(新規事業として、産業衛生技術部会の発足、新しい表彰制度が盛り込まれる予定)

6. 奨励賞受賞者として、田中茂講師(北里大)を承認した。

7. 現在の会員数は7,150名(北海道190、東北284、関東2,992、北陸392、東海696、近畿1,307、中国383、四国193、九州690、外国23)と報告された。(田中勇武理事)

九州地方会理事会報告

平成12年度第2回理事会が、平成12年12月23日(土)午後2時~4時の間、福岡産業保健推進センターにおいて開催された。出席者は、理事11名、監事2名、幹事1名、平成13年度九州地方会学会長1名、事務局1名、の計16名のもと開催された。議題は、

1. 平成12年度第1回理事会議事録要旨(案)の確認について

2. 平成12年度事業報告及び決算中間報告について

3. 平成13年度事業計画及び予算(案)について

4. 平成13年度地方会学会の開催について

5. 平成14年度地方会学会の開催地について

6. 地方会各理事分掌事項について

7. 平成14年度12回産業医産業看護全国協議会の開催について

8. 第73回日本産業衛生学会の会計処理について

9. その他

であった。

なお、平成13年度九州地方会学会は、福光ミチ子(BOOCs情報センター福岡)学会長のもと平成13年7月6日~7日の期間、九州大学同窓会館(福岡市東区馬出3丁目1-1)にて開催予定である。

その他、平成13年度に開催が予定されている研究会は、健康管理研究会、産業看護研究会、労働者の生涯健康の支援を考える研究会、第101回九州医師会医学会第7分科会産業医学会第2回九州産業医教育講演会がある。

(九州地方会事務局)

編集後記

今号は梅の花に合わせたわけではありませんが、例年より1ヶ月前倒しの発行で、執筆の方々には色々ご迷惑をおかけしました。

特集として産業看護研究会、参加記として九州医師会医学会を取り上げました。今後も様々な研究会、学会(国内・国外)等ご参加の方々にご寄稿をお願いする予定ですが、会員の皆様のご投稿もお待ちしております。(工藤記)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成13年2月28日

編集正責任者:三角 順一(大分医科大学)

編集副責任者:東 敏昭(産業医科大学)

編集委員:青木 一雄(大分医科大学)

青山 公治(鹿児島大学)

石竹 達也(久留米大学)

市場 正良(佐賀医科大学)

畝 博(福岡大学)

大村 実(九州大学)

小柳 敦子(日赤熊本健康管理センター)

新城 正紀(沖縄県立看護大学)

永田 耕司(長崎大学)

日笠 理恵(福岡県市町村職員共済組合)

前原 正法(宮崎医科大学)

宮北 隆志(熊本大学)

吉積 宏治(産業医科大学)

(五十音順)

<編集事務局連絡先>

〒879-5593 大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1-1

大分医科大学公衆・衛生医学(II)講座

(担当:青木、工藤、園田)

TEL (097)586-5742

FAX (097)586-5749